記 者 会 見 28.4.14

市所蔵浮世絵展「浮世絵と江戸衣装」

宮永岳彦記念美術館では、優れた美術作品と触れ合う機会として、所蔵する 浮世絵を紹介する浮世絵展を平成16年から定期的に開催しています。

16回目となる今回は、江戸の庶民や舞台役者の着物などに、伝統的な紋様や柄の描かれた色鮮やかな作品を展示します。

所蔵する浮世絵は、約1900点あり、平成10年に本市出身の浮世絵収集 家故大津圓子氏から寄贈を受けたものです。

1 と き 4月15日(金)~23日(土) ※18日(月)は休館 午前10時~午後5時

2 ところ 宮永岳彦記念美術館市民ギャラリー (入場無料)

3 内 容 歌舞伎役者が身に付け流行した衣装や、着物に施された 市松・ 編・菱・亀甲など伝統的な紋様や柄が描かれた 4 0 点を展

示します。

問い合わせ 生涯学習課 電話0463(84)2792



三代目沢村田之助の放駒の長吉

四代目中村芝翫 の濡髪長五郎



十三代目市村羽左衛門 の曙源太

三代目市川九蔵 の幻長蔵

[二代歌川広重]



市川団十郎演百番芸 関兵衛



市川団十郎演芸百番 五 暫

[豊原国周]

市所藏浮世绘 📜

一个 浮世绘と江戸家場

平成28年 4月15日(金)~4月23日(土)

展示目録

No.	題 名	作者名	制作年代
1	(羽織を畳む美人)	药川英山	天保期 (1830~44年)
2	風流酒戲三美人	菊川英山	文化11年8月 (1814年)
3	(品川沖汐干之図)	菊川英山	文化末期 (1804~1818年)
4	十二ヶ月之内 文月	歌川国貞 (三代豊国)	嘉永期 (1848年~)
5	隅田川にわか夕立	歌川国貞 (三代豊国)	安政4年4月 (1857年)
6	初平忰駒吉・尾上之助下郎初平・藤賀女房お山	歌川国貞 (三代豊国)	嘉永6年3月 (1853年)
7	近世水滸伝 河原崎権十郎の提緒の猪之介	歌川国貞 (三代豊国)	文久2年10月 (1862年)
8	近世水滸伝 五代目市村竹之丞のやかんば小僧吉三	歌川国貞 (三代豊国)	文久3年10月 (1863年)
9	三代目市川九蔵の朝ぎり嶋蔵	豊原国周	慶応2年2月 (1866年)
10	十三代目市村羽左衛門の曙源太・三代目市川九蔵の幻長蔵	豊原国周	文久3年9月 (1863年)
11	三代目市川九蔵の熊さか長次・四代目市村家橘の鷲の長吉・河原 崎国太郎の江嶋屋娘およし・五代目坂東彦三郎の朝比奈藤兵衛	二代歌川国貞	慶応2年1月 (1866年)
12	二代目沢村訥升の侘助娘小志づ・中村鶴藏の土器売侘助・ 四代目市村家橘の男達野晒悟助	二代歌川国貞	慶応元年2月 (1865年)
13	六代目市川団蔵の髭ノ意休・河原崎権十郎の揚巻ノ助六・ 三代目岩井粂三郎の三浦ノ揚巻	歌川国貞 (三代豊国)	文久2年2月 (1862年)
14	市川団十郎演芸百番 団七九郎兵衛	豊原国周	明治31年8月 (1898年)
15	市川団十郎演芸百番 花川戸助六	豊原国周	明治30年3月 (1897年)
16	市川団十郎演芸百番 五 暫	豊原国周	明治27年 (1894年)
17	市川団十郎演芸百番 八重桐	豊原国周	明治32年5月 (1899年)
18	市川団十郎演芸百番 関兵衛	豊原国周	明治31年10月 (1898年)
19	市川団十郎演芸百番 葛ノ葉狐	豊原国周	明治31年8月 (1898年)
20	見立三十六歌撰之内 中納言家持 狐忠のぶ	歌川国貞 (三代豊国)	嘉永5年11月 (1852年)

No.	題 名	作者名	制作年代
21	見立三十六歌撰之内 藤原清正 中納言行平	歌川国貞 (三代豊国)	嘉永5年11月 (1852年)
22	見立三十六歌撰之内 平兼盛 さねもり	歌川国貞 (三代豊国)	嘉永5年11月 (1852年)
23	見立三十六歌撰之内 藤原高光 よりかね	歌川国貞 (三代豊国)	嘉永5年11月 (1852年)
24	見立三十六歌撰之内 大中臣能宣 舎人松王丸	歌川国貞 (三代豊国)	嘉永5年10月 (1852年)
25	見立三十六歌撰之内 中納言兼輔 ひぐちの次郎	歌川国貞 (三代豊国)	嘉永5年11月 (1852年)
26	六代目坂東三津五郎のこし元岩橋・四代目市村家橋の不破伴 作・二代目沢村訥升の名古屋小山三	二代歌川国貞	慶応元年1月 (1865年)
27	四代目中村芝翫の濡髪長五郎	歌川国貞 (三代豊国)	元治元年10月 (1864年)
28	三代目沢村田之助の放駒の長吉	歌川国貞 (三代豊国)	元治元年10月 (1864年)
29	古今角力鏡 白藤	歌川国貞 (三代豊国)	安政2年9月 (1855年)
30	古今角力鏡 鬼ヶ嶽	歌川国貞 (三代豊国)	安政2年9月 (1855年)
31	扇合隅田川八景 浅草寺の鐘	歌川国貞 (三代豊国)	弘化期 (1844年~)
32	扇合隅田川八景 関屋のつみ草	歌川国貞 (三代豊国)	弘化期 (1844年~)
33	河原崎権十郎の与兵衛・六代目市川八百蔵の肴売・ 中山現十郎の藤八	歌川国貞 (三代豊国)	元治元年3月 (1864年)
34	五代目坂東彦三郎の治郎吉・中村鴈八のいしや・ 嵐冠五郎のごけ	歌川国貞 (三代豊国)	元治元年3月 (1864年)
35	見立十六むさし 前さし	歌川国貞 (三代豊国)	文久2年1月 (1862年)
36	十六むさしの内 銭ざし	歌川国貞 (三代豊国)	文久元年12月 (1861年)
37	今様押絵鏡 出来ぼしの三吉	歌川国貞 (三代豊国)	安政6年4月 (1859年)
38	今様押絵鏡 小柴彦蔵	歌川国貞 (三代豊国)	安政6年4月 (1859年)
39	女夫源氏二十余帖 青柳納涼 柳橋錦八・四代目市川小団次の鬼薊清吉	二代歌川国貞 豊原国周	慶応元年 (1865年)
40	めうとけんじ二十余帖 八百半打水 柳橋千代・四代目市村家橋の半兵衛	二代歌川国貞 豊原国周	慶応元年7月 (1865年)

秦野市立宮永岳彦記念美術館

◆主 催 秦野市教育委員会

◆問い合わせ 生涯学習課 TEL 0463-84-2792

〒257-0001 神奈川県秦野市鶴巻北3-1-2 TEL / FAX 0463-78-9100





市所蔵浮世絵展

4月15日(金)~4月23日(土)

休館日:4月18日(月)

◆時 間

 $10:00\sim17:00$

秦野市教育委員会

◆会場

秦野市立宮永岳彦記念美術館 市民ギャラリー 〒257-0001 神奈川県秦野市鶴巻北 3-1-2 Tel/Fax 0463-78-9100

◆主 催 ◇問い合わせ

生涯学習課(Tel 0463-84-2792)

市所厳厚世绘展得世绘及は全体をは

平成 28 年**4**月**15**日(金) ~ **4**月**23**日(土) 10:00~17:00 休館日: 4月18日(月)



市川団十郎演芸百番 花川戸助六 《豊原国周》



市川団十郎演芸百番 葛ノ葉狐 ≪豊原国周≫



六代目坂東三津五郎のこし元岩橋・四代目市村家橋の 不破伴作・二代目沢村訥升の名古屋小山三 《二代歌川国貞》

江戸の人々は流行に敏感で、洒落っ気をきかせることを「粋」として、当時の最先端モデルでもあった舞台役者たちが身に付けることで大流行した衣装は、老若男女問わず多くの人々を魅了し、浮世絵に表現されました。

そして、日本の伝統衣装である着物には、市松・縞・菱・亀甲など馴染みのある紋様と柄が施され、時代に応じて変化しつつも、現代まで数多く受け継がれています。

本展では、江戸庶民の着物や役者たちの舞台衣装などに、伝統的な紋様や柄の描かれた浮世絵を紹介いたします。

鮮やかな色合いから垣間見える、当時の流行や美意 識とともに、浮世絵の構図におけるデザイン性をお楽 しみください。

大律圓子氏の俘世绘コレクション

展示の浮世絵は、平成10年に秦野市東田原出身の浮世絵収集家・故大津圓子氏より秦野市が寄贈を受け、所蔵する約1,900点の中から出品しています。

大津氏は、実業家として成功をおさめられた一方で、人生を振り返って空虚感にさいなまれた時、浮世絵を見ての感想を、自叙伝『男なんかに負けられません』で次のように記しています。

「その時、浮世絵を見たのでした。何と美しい。何と魅力的で創造的な絵、なつかしい昔の人が住んだ家、道……。浮世絵は私の故郷であり、生命の泉でありました。」

大津氏は、日本の伝統的な美術である浮世絵を、秘蔵するのではなく、 あとに続く若い世代に是非見てほしいと、故郷 秦野市に寄贈されました。 市では、この貴重な浮世絵を紹介するため、定期的に展覧会を開催して います。



二代目沢村訥升の侘助娘小志づ・中村 鶴藏の土器売侘助・四代目市村家橘の 男達野晒悟助 《二代歌川国貞》



十六むさしの内 銭ざし[左]・ 見立十六むさし 前さし[右]《歌川国貞》

表作品名:三代目沢村田之助の放駒の長吉[左]・四代目中村芝翫の濡髪長五郎[右]《歌川国貞》

秦野市立 宮永岳彦記念美術館

〒257-0001 神奈川県秦野市鶴巻北 3-1-2 TEL/FAX 0463-78-9100

http://www.city.hadano.kanagawa.jp/s-gakushu/miyanaga.html

《隣接》公営日帰り温泉 弘法の里湯 TEL 0463-69-2641



美術館へのアクセス

- ◆小田急線 鶴巻温泉駅より 徒歩2分
- ◆ 駐車場 弘法の里湯と共用 20 台 / 1 時間 150 円 以降30 分ごとに100 円